

最後に面白いのはヂウウスの考へで彼れは地殻を其の中に含まるゝ主成分に依つて三部分に分つて居る。第一は岩石層或はザール (Sile) 主成分がシリコン及アルシニウムなる所から斯くは名付けたものである)と稱するもの、第二はマグマの層或はジマ (Sima 主成分シリコン、マグネシウム)と稱するものである)と稱するもの、第三はニフェ (Nife 主成分鐵、ニッケル)と稱したのである。此の考へは此の原文中には記載されて居ないがウエゲナー (Wegener) の大陸移動説の根本となるものである。之れ迄は千九百年以前の諸研究を歴史的に記述したに過ぎないので次には地震波動の研究から地球内部の構造を論じ様と思ふ。

(未完)

雜報

○輕石漂着の件 今年七月迄に紀伊、四國、九州方面に輕石漂着せしもの多く各地方測候所より報告ありたれば其の報告の儘を茲に録す。

一、三重縣津測候所報告 近來本縣鳥羽近海に輕石夥多漂游し來り嘗て見ざるの現象なり。右輕石を

志摩郡濱島水産試験場より本所へ送付し來れり、又漂着の報告ありしは左の町村なり

鳥羽警察署報告 六月九日頃國府、安東、鏡浦、長岡、菅島、答志の各村及濱島町に液流し、

國府附近に漂着のものは蠣の附着せるものあり、大さは徑四・五寸位にて一寸乃至一寸五分位のもの最し多し。

縣立水産試験所（志摩國濱島町）

志摩國沿岸一帯に多數の輕石漂流し來る

阿曾漁業組合（伊勢國度會郡中島村字阿曾）

七月十四日より當地海岸に多數の輕石漂着す。

度會郡中島村阿曾浦漁業組合 六月中旬より當地海岸に輕石多數漂着す

南牟婁郡荒坂村役場報告 七月初旬徑約三四寸位の大きさのもの新しきものあり中には「セイ」

「海苔」の附着せるものあり。

志摩郡波切村波切警察分署 六月中旬より部内御座村、越賀村、和良村、布施田村、片田村等

の太平洋面の海岸に徑一寸乃至五六寸の輕石多數漂着せり。

一 和歌山測候所報告

郡	町村	初メテ漂着シタル月日	多數漂着シタル月日	大ナルモノノ大キサ	狀況	記事
海草湊村	不明		七月初旬	直徑一寸位		

徳島測候所報告

日	高	白崎村	同	六月二十一日頃	沖合ニテ漁業者ノ發見
同	比井崎村	四月頃	不	旭	極メテ輕ク貝ノ附着セツモノアリ
同	印南町	不	明	六月四日	南風ノトキ漂着多シ
西牟委	瀬戸鈴山村	六月十三日	六月中旬ヨリ	下旬マデ	大ナルモノ鳥帽子貝ヲ附着シタルモノアリ其ノ質密ナリ
同	串本町	三月頃	不	旭	貝殻虫ヲ寄生ス
東牟委	古庄町	四月中旬	五月十日	直径八寸位	沖合ニテ發見
同	太地町	六月十日	六月十日	直径八寸位	燒麩ノ如キモノアリ青苔ヲ附着ス
同	新古町	不	明	六月中旬	鶏卵大
同	宇久井町	六月十七日	自六月十九日	至同月廿一日	直径六寸位

漂着セル場所	名東郡沖洲村沖洲浦	同上時日	輕石ノ大サ及量	輕石ニ動植物ノ寄生セル模様	参考事項
高洲及小高洲海岸一帯	五月廿六日	午後二時頃	徑一二寸ノモノ多數	苔藻類寄生ス	

海都郡牟岐浦灣内 楠ヶ浦海岸	七月一日 午前七時頃	最大ハ百二三十 匁位以下ノモノ 多數	大ナルモノハ青 キ苔又ハ貝寄生 ス	此外七月二十四日ニ モ漂着ス
同郡和佐町 沿岸一帯	六月中旬	數 拇指大ノモノ多	海苔附着ス	七月二十三日頃最モ 多量トナル
同郡安喰町 沿岸全部	七月廿五日	大ナルハ約一 尺小ナルモノ ハ約一分	苔貝寄生ス	
同郡淺川港 灣内沿岸一帯	七月十三日 午前九時頃	大ナルハ九十匁 位小ナルハ四 五匁位	貝ノ寄生セルモ ノアリ	
海部郡阿部村 沿岸一帯	五月初旬	經五寸位ヨリ以 下ノモノ	稀ニ貝寄生ス	
同郡三岐田町志和岐浦 海岸一帯	七月廿五日 午後四時頃	小形ノモノ多量	認メズ	
板野郡瀬戸村 沿岸一帯	六月上旬	經六寸以下ノモノ	苔附着セルモノ アリ	

一、長崎測候所附屬富江觀測所報告

五月廿八日海洋觀測施行中富江灣内に拳大のもの點々交り藻と共に漂流して一團をなし其の中に小蟹の寄生せるものあり

一、愛知測候所報告 七月二十八日午後四時前後三重縣桑名郡富田灣海岸に無數の輕石漂流（貝及海殼藻附着す）せしとの通知あり、大さ大なるものは直徑六寸陸上より二三尺位のところまで漂流す。（七月二十九日報告）

一、燒岳噴煙の觀測

長野縣諏訪中學校教諭三澤勝衛氏は十月四日八ヶ岳地質調査の爲め同郡湖東村に出張中燒岳の噴煙を觀測せられ左の如き觀測概況を報ぜられたり。

觀測の場所は諏訪郡湖東村澁川字大瀧にして海拔約千四百八十米突の地點なり。同日午後三時半頃噴煙の高く騰り居るを認む其頂上は水平にして少しく穂高岳の方向に傾き、頂上の高度はクリノメートルの測定によれば海拔約一萬二千米突に達したり、噴煙の模様より想像すれば噴火は早くも同三時頃なりしと思はる、午後四時半には噴煙は悉く崩れて穂高岳の方面へ舌狀をなして靡けり。

又同教諭は同月十二日午後三時一分諏訪中學校庭にて握拳狀の噴煙の噴騰するを認めハンド、レベルにて高度を測量するに約五度ありたれば噴煙頂上は概約海拔五千米突なり、其後十分間の後東方へ四〇度

の角度をなして靡けり。

二、海震？を感ず

十月廿九日バンクーバーより横濱に到着したる加奈陀太平洋汽船會社汽船「エムプレス、オブ、ロシア」船長 エー、ゼー、ホスキンの報告に依れば、同船は十月廿三日船時午前十二時廿五分、北緯五十度卅五分東徑百七十六度四十五分の地點に於て、顯著なる衝動を感じたりと云ふ。當日は北東の微風吹き、波靜かなれど曇り勝なり。この衝動は船の内部に原因するものに非ず、機關長はエシジンに何等の故障なかりしと云ふ。機關室以外の所にては數秒に渡る微動を感じたり。而して之は又暗礁等に依るものに非ず。

驗震上興味あるべしと思ひて報告せりと云ふ。(十一月四日 横濱税關港務部發)
尙本臺地震計室ガリツチン地震計は同時刻に何等の地震をも記録せず。